

第3埠頭を魅力的に

小樽商工会議所 建築家らとシンポ

小樽港第3号埠頭周辺の整備や、人材育成について議論したシンポジウム



大型クルーズ船誘致へ向けた整備計画が進む小樽港第3号埠頭について考えるシンポジウム「躍動する港で起ること」(小樽商工会議所主催)が26日、小樽市色内2の運河プラザ三番庫で開かれ、市内外のデザイナーや建築家らが、観光振興やまちづくりについて意見を交わした。

2011年から続く同商工会議所のプロジェクトの一環。初めに市内のデザイナー会社「N合同会社」代表

社員の福島慶介さん(43)が、埠頭でのカフェ運営などこれまでの活動を紹介した。福島さんは解体検討中の北海製缶小樽工場第3倉庫を観光資源だとし、「いかに使い、どう見せるかが大切」と訴えた。

東京や海外を拠点に活動する建築家の山雄和真さん(42)は、埠頭基部のおたるマリン広場内に市が整備を

計画する観光施設について「歴史と調和し、まちの象徴となる施設にするべきだ」と主張した。小樽商科大の学者らと交えた座談会も行い、若手の人材育成についても議論。集まった市民ら約30人が聞き入っていた。

(鈴木孝典)